

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	富山市恵光学園		
○保護者評価実施期間	令和7年12月3日		～ 令和8年1月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和7年12月3日		～ 令和8年1月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年12月3日		～ 令和8年1月21日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所は、作業療法士が訪問支援を担当しており、専門的視点に基づいた具体的なかつ実践的な助言を提供できる。	作業療法士が得意とする、姿勢、運動、生活動作、遊びなど、日常生活の中で楽しみながら取り組めるように、かつ、すぐに実践できる支援になるように取り組んでいる。	具体的な支援の仕方を訪問先の先生方に伝えたり、利用児にあった自助具や必要なツールなどを実際の場面で使用し、活用してもらえるよう取り組んでいく。
2	法人内の放課後等デイサービスや児童発達支援事業と連携した支援ができる。	訪問先に行く前に食具や文房具などを試行したり、訪問先や家庭と共通のものを使用することでより利用児の手先の操作性を高めることができる。	法人内の放課後等デイサービスや児童発達支援事業だけでなく、他の施設とも連携を図っていく。
3	利用児の見立てに必要な専門的な検査や評価を実施し、根拠のある支援ができる。	根拠に基づき、訪問先の先生や保護者にわかりやすくかつ具体的に評価や利用児の様子などを知らせることができる。必要時には、医療機関や同園の多職種と連携を図っている。	可能であれば、多職種と一緒に訪問し、支援できるように取り組んでいく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児への個別の支援が主になるため、クラス全体への環境調整やインクルーシブな集団づくりにまで十分に働きかけられていない。	作業療法士として「参加」や「環境調整」を重視する視点を持ちながらも、実際の支援は個別対応に焦点が当たりやすく、集団全体へのアプローチを体系的に行うことが難しい。	個別支援の中にも、クラス全体で活かせる工夫や、環境設定などにも目を向けながら考えていく。そして、利用児がクラスの一員として生き生きと過ごせるように、考えていく。
2	訪問支援員が1名体制であるため、訪問や記録作成、関係機関との連携などの業務が集中しやすい。	お受けできる訪問件数や日程調整において希望に沿えない場合が生じることがある。	今後は、計画的なスケジュール管理を行い、訪問目的を明確にすることで、限られた時間の中でも質の高い支援が提供できるようにする。また、記録様式の工夫や外部機関との連携を通して、多角的な視点を取り入れながら支援体制の充実を図っていく。
3	支援の効果の『見える化』が難しい。	助言したことに対して、どれくらい効果があったのか、支援前後で何がどう変化したのか、数値や客観的な指標で示しにくいこともある。	目標を具体的に設定することや、必要時には客観的指標に基づいた評価を適宜実施することで、効果の見える化を図る。